

新政厚徳

※新政厚徳「厚き徳をもって新しい政(まつりごと)をなす」との意

SNSで
毎日情報を配信!



www.masato.tv



365日 横浜・青葉のために!

政策発表

課題解決の方向性を力強く発表

3月11日「青葉タウンミーティング2023」が開催され、横山正人議員が次の4年間に取り組む主な課題5項目を発表しました。

子育て支援で若者が夢を抱き、輝く横浜。

仕事と子育てを両立できる体制を強化し、横浜が全国に発信できる仕組みを作ります。妊娠から出産、乳幼児支援、小児医療、保育修学などライフステージに合わせた市民満足度を確保します。横浜市に子育て支援の責任を明確化します。

住宅街である青葉区の住環境を守ります。

防犯防災、交通安全、コミュニティバスなど買い物や駅までの地域移動、特色ある公園、みどり豊かな環境など若年層から高齢者まで住み続けたいと思える街づくりを大切にします。市営地下鉄新百合ヶ丘延伸の早期着工。こどもの国線の鶴川延伸も引き続き取り組みます。

人や企業から選ばれる都市を実現します。

横浜市は長期財政推計によれば人口減少、少子高齢化などの影響により今後、厳しい財政運営が予想されます。他方、学校の建て替え、行政手続きの効率化を進めます。

行政手続きの効率化を進めます。

すべての行政手続を見直し、自宅や職場で行政手続が可能なオンライン化を進め、経費削減につなげます。

学校教育の充実を進めます。

教育による人材育成は我が国の生命線です。質の高い公教育による学力、体力の向上など横浜の子供達に自らの将来像を想像的に描き、給食」を目指します。

横浜市会議員選挙

横浜市選挙管理委員会は横浜市会議員選挙の期日を決定しました。

● 告示日：3月31日(金)

● 投票日：4月9日(日)

仕事やレジャー等で投票日に投票所へ行くことができない見込みの方は、期日前投票ができます。青葉区役所、山内地区センターが4月1日(土)から8日(土)まで、青葉台東急スクエアは4月5日(水)から7日(金)まで、青葉台東急スクエアでは4月8日(土)は期日前投票ができません。ご注意ください。

期日前投票所	青葉区役所 1階 区民ホール	山内地区センター1階 レクリエーションホール	青葉台東急スクエア South-本館 5階多目的ホール
投票期間	4/1(土)~4/8(土) ※知事選のみ24時から	4/1(土)~4/8(土)	4/5(水)~4/7(金) ※4/8日は投票できません
投票時間	8時30分~20時	9時30分~20時	9時30分~20時
交通	市が尾駅西口 徒歩8分	あざみ野駅東口 徒歩3分	青葉台駅 徒歩3分



横山正人 プロフィール

【経歴】昭和39年横浜生まれ。桜美林高校、桜美林大学経済学部を経て米国デラウェア大学留学。平成元年、在アメリカ合衆国日本大使館勤務。平成3年、参議院議員秘書。平成7年、31歳で横浜市議員初当選(当時市会自民党史上最年少当選)以降連続7期当選。市会運営委員長、自民党横浜市連幹事長、政調会長、自民党市会議員団長などを歴任。令和元年、青葉区選出議員として初となる横浜市議員(第50代)就任。

【現在】米州友好横浜市議員連盟会長。日華親善横浜市議員連盟会長。横浜市トライアスロン協会副会長。横浜日米協会理事。横浜北リトルシニア会長。青葉区スポーツ協会顧問。青葉区ソフトバレーボール連盟会長。青葉区ダンススポーツ協会顧問。自民党青葉区連合支部支部長。自衛隊募集相談員。横浜青年会議所シニア会員。

将来の横浜へ、責任を果たす

持続可能な市政

横浜市政は、いついかなるときも、市民の皆様がのびのびと生活を支え、未来をつなぐためにあります。そうした中で、現在の市民の皆様に対して、将来にわたって安心して生活の基盤を置いていただけるよう、不確実性の高まる中でも可能な限り将来を見通し、持続可能な横浜市の姿を示していくことは、横浜市政に求められる責任の一つです。

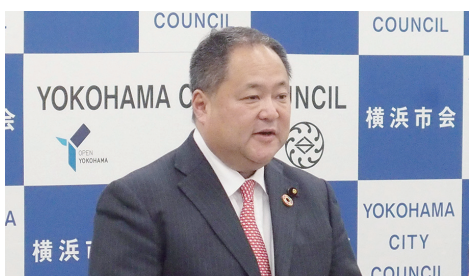
社会的背景の変化

横浜市では、今後、長期的に総人口が減少するとともに、人口構成についても、これまで大きな割合を占めてきた生産年齢人口が減少し、65歳以上の高齢者の割合が高くなっていくことが予測されています。これに伴

い、市税収入の減少と社会保障経費の増加が生じ、毎年度の財政収支の不足が拡大していくことが見込まれています。また、これまで多くの財源を投入してきた市内の公

確実な成長戦略

このような現状認識のもと、少子高齢化や人口減少、税収不足等の課題解決のため、税収増につながる人や企業を呼び込む政策、規制緩和、用途地域等の見直し、事業投資などを進め、横浜市が「人や企業から選ばれる都市」となる成長戦略を常に意識して都市を営み、将来の横浜への責任を私は果たしてゆきたいと考えています。



温かくて美味しい中学校給食を実現するには

横浜市は「横浜市中期計画2022-2025」により、中学生全員がデリバリー型給食を利用する方向性が決まりました。しかし、市教育委員会のアンケート調査によれば、半分の生徒はデリバリー型給食ではなく、家庭弁当がいいと回答しています。デリバリー型給食は、おかずが冷たく、見た目、味が良くないと、中学生から不評です。

実施方法の変更が必要

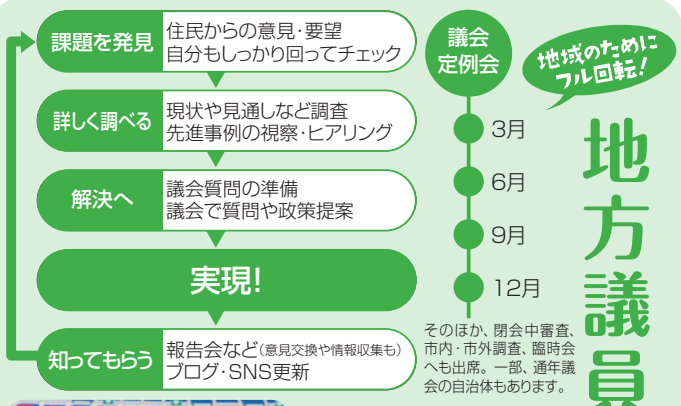
先行してデリバリー型給食を実施している大阪市、広島市など大都市は、小学校と同様の「自校調理方式」や給食センター方式で配送する「センター方式」に切り替えて「温かくて美味しい給食」に変更することを決めています。また、堺市や神戸市でも同様に変更を検討中です。小学校で調理した給食を中学校に配送する「親子方式」も含め、多くの政令指定都市で切り替えているのが現状です。

しかし、市教育委員会のアンケート調査によれば、半分の生徒はデリバリー型給食ではなく、家庭弁当がいいと回答しています。デリバリー型給食は、おかずが冷たく、見た目、味が良くないと、中学生から不評です。先行してデリバリー型給食を実施している大阪市、広島市など大都市は、小学校と同様の「自校調理方式」や給食センター方式で配送する「センター方式」に切り替えて「温かくて美味しい給食」に変更することを決めています。また、堺市や神戸市でも同様に変更を検討中です。小学校で調理した給食を中学校に配送する「親子方式」も含め、多くの政令指定都市で切り替えているのが現状です。



方式などのハイブリッドで「温かくて美味しい給食」を中学生に提供すべきです。市教委は自校調理方式、親子方式などの実施が可能なのは145校中、72校としています。が、実施を前提に検討すれば、数は増えると思われ、それでも対応困難な学校はセンター方式での実施を考えればよいのです。

月刊「新政厚徳」
毎月最終木曜日、絶賛連載中
※新政厚徳「厚き徳をもって新しい政(まつりごと)をなす」との意



地方議員の仕事サイクル

地方議員の役割は、住民の声を行政に反映させ、地域課題を解決すること。年4回の議会会期中は議会に出席して意見を述べるほか、会期外(閉会中)でも住民の意見や要望を聞き取り、独自に調査活動やタウンミーティングを行うなど、地域のために日々奮闘しています。



マンガ 「政治家・横山正人ものがたり」

私はなぜ政治家になろうと思ったのか? 初めて有権者となる18才の皆さんへ是非伝えたい、大切なメッセージです。

